

タイ語における味覚語の比喩的転用

Metaphoric Transfers of Taste Words in the Thai Language

宮本 マラシー

Marasri Miyamoto

大阪大学

Osaka University

Abstract: The purpose of this paper is to study the characteristics of the metaphoric transfer of words for the gustatory sensation in the Thai language. This study has been carried out by semantically analyzing taste words that are metaphorically used for describing other senses and other things. The results show that the features of transferred meanings and metaphoric transfers occur as follows:

1) Although transferred meanings of taste words principally have a strong resemblance to their own primary meanings, a few of them connote contrarily to their original sense. 2) Taste words have developed in order to metaphorically describe the auditory sense, the olfactory sense and the visual sense, but there is no evidence that they have developed to describe the tactual sense. 3) Taste words have developed beyond the domain of sensations used for naming plants (vegetables, fruits), foods and diseases, and are now used to describe states of affairs, people's appearances, personalities, states of mind and feelings.

Key words: taste words, metaphor, Thai language

1. はじめに

1.1 背景

Myers [1904] が世界の様々な地域で未開の民族 (primitive peoples) の味覚表現について調査した結果では、英語と比べ、未開の民族の味覚語には差異化が欠けている。最も未開な社会では、食物は主として美味しい (tasteful) と不味い (distasteful) にしか分類されておらず、多くの民族には塩辛い (salty) と酸っぱい (sour)、そして塩辛い (salty) と苦い (bitter) の区別に混乱が見られる。New Guinea、New Hebrides、そしてPolynesiaの多くの地域では、塩辛い (salty)、酸っぱい (sour)、そして苦い (bitter) を同じ言葉で表す、などが指摘されている [Backhouse 1994 : 4]。味覚語の数や表現の仕方は、Myersの調査の結果のように、社会によって相違がある。英語には、一般的にsweetness (甘さ)、bitterness (苦さ)、sourness (酸っぱさ)、そしてsaltiness (塩辛さ)、を表す4つの基本の味覚語がある。日本語には、「甘い、辛い、酸っぱい、苦い、渋い」があるが、「辛い」は、「塩辛い」と「唐辛子辛い」に大き

く分けられている。タイ語には、「wǎan 甘い」、「man マン風味の」¹、「pǐaw 酸っぱい」、「khem 塩辛い」、「phèt 唐辛子辛い」、「khǒm 苦い」、「faat 渋い」、「cùut チュート味の」²という味覚の基本語がある [宮本 2011]。これらの言葉は味そのものを表すだけでなく、他のことを表すために転用されることもある。転用される味覚語については先行研究に取り上げられたことがあるが、その中では転用の具体的な状況や転義の特徴等ははまだ不明な点が少なからず残っていて論証すべきだと思われるところがある。

1.2 先行研究

Williams [1976] は、視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚の5つの感覚分野を表す形容詞の間に、ある感覚を表すのに別の感覚分野に属する語を比喩的に用いる「共感的比喩 (synaesthetic metaphor)」の比喩方向は一方向であることを指摘した。味覚に関して言えば、触覚からの転用はあっても味覚から触覚に転用する比喩はなく、味覚から臭覚、聴覚への比喩的転用はあるがその逆方向はないという法則を示している。Williams [1976] の指摘した比喩的転用の方向性はその後多くの研究者によって再検討が行われている。その中に、国広 [1989]、山口 [2003]、瀬戸 [2003]、楠見 [2005] などがいる。国広 [1989] は日本語の用例を示しながら、Williams [1976] の指摘した法則に「味覚→視覚」、「触覚→臭覚」を追加した。山口 [2003] は「丸い味」や「四角い味」などを取り上げ、視覚から味覚に転用されていることがあることを証明している。瀬戸 [2003] は、一方向に従わない例が非常に多くあり、その中に視覚から味覚に転用される用例が最も多くあることを示した。楠見 [2005] は、共感的比喩表現の心理実験に基づく評定データとインターネット上の頻度データを対応させて、Williams [1976] などによる比喩的転用の方向性の再検討を行った。感覚形容語の共感的な修飾方向には、逆方向の用例もあるが、順方向の共感的修飾語句は逆方向のそれよりもはるかに頻度が高く、受け手に理解される可能性も高いということを指摘した。

タイ語に関しては、次のような研究が見られる。綾部 [1979] はタイ語の味覚を表す基本的単語「wǎan アマイ」³、「khem (塩) カライ」、「pǐaw スッパイ」、「khǒm ニガイ」、「phèt (ピリット) カライ」、「faat シブイ」と、それぞれの比喩的表現を英語の「sweet」、「salty」、「sour」、「bitter」、「hot」、そして、日本語の「アマイ」、「カライ」、「スッパイ」、「ニガイ」、「シブイ」といった言葉から出来た比喩的表現および、そこに表されているそれぞれの味覚語の意味的転移の特徴を比較し検討している。綾部 [1979] が指摘した結果には次のようなことも含まれている。味覚語が他の感覚に転移するのは、においとおとに限られるといったWilliams [1976] が述べている法則に対し、日本語とタイ語では、たとえば、「このネジは甘い」や「こんな甘ったるいピンクは好かない」のように、その法則に反する例がかなりあるということである。佐藤 [2000] はタイ語における感覚形容詞のメタファー的拡張の考察の一環として、味覚語の

意味的拡張について述べている。タイ語の感覚形容詞の意味的拡張は、Williams [1976] の共感覚的比喩 (synesthesia) の法則である【味覚→聴覚】と【味覚→嗅覚】以外にも、【味覚→視覚】といった意味的拡張の例もあることを証明している。また、Jantra [1999] は、日本語の「あまい」の意味的拡張を検討する際に、英語の「sweet」、そしてタイ語の「wǎan」も対照的に考察している。また、それぞれの味覚形容詞の、比喩法における味覚のドメイン内から味覚のドメイン外への拡張プロセスについて記述している。Jiranathanaporn and Singnoi [2010] はタイ北部の南部地域における味覚語の研究においては、その地域のタイ系族の人々が味を表すのに、基本の味覚語以外にも、味覚語に修飾語を付けたり、味覚語と嗅覚語、または味覚語と触覚語、等との共起の表現が用いられることがあると指摘しているが、そこにおける比喩の検討は行われていない。宮本 [2012] は共通タイ語における味の評価に用いられる表現を考察した際に、タイ人は、味を評価するのに基本の味覚語以外にも触覚語、嗅覚語、そして比喩的表現なども用いていることがあると論証しているが、それぞれの比喩における意味的な分析までには至っていない。また、宮本 [2013] はタイ語には味を表すために、たとえば、「rói nôm やわらかい味=やわらかくて優しい感じを与える味」、「rói klomklòm 丸みがある味=様々な味が混合されているが全体的にうまく調和がとれている味」、「rói hǒm wǎan 香ばしくて甘い味=香ばしさと甘さが共存している味」のように他の感覚語からの比喩的転用が多く見られ、その転用の方向性は、触覚以外に、視覚と嗅覚からの転用も見られることを指摘している。また、味は様々な形状の物や様々な行動や行為をする生き物に見立てられているとも記述している。

1.3 研究目的

本稿の目的は、比喩的に用いられる味覚語を意味的に分析し、下記の3点を明らかにすることである。

- (1) 味覚語が転用されるパターンとその転義の特徴。
- (2) 感覚分野内での味覚語の転用の方向性とその転義の特徴。
- (3) 感覚分野外への味覚語の転用における転義の特徴。

なお、分析の対象は比喩的に用いられる味覚語、及びそれぞれの味覚語と他の言葉との共起からなる熟語や慣用句である。分析に用いられる例文は、「Thai National Corpus (TNC)」[Department of Linguistics, Faculty of Arts, Chulalongkorn University 2007-2013]、インターネット、そして「タイ日辞典」[富田 1990] から引用した。それぞれの例文の右下にその出典を記している。

2. 味を表す言葉

味を表すタイ語には、元々味覚語である言葉と、味を表すために他の分野の言葉から比喩的に転用されてきた言葉がある。元々味覚語には次のような言葉がある。「wǎan 甘い」、「man マン風味の」、「prǎao 酸っぱい」、「khem 塩辛い」、「phèt 唐辛子辛い」、「khóm 苦い」、「khùn 渋酸っぱい」、「fàat 渋い」、「fǎan フアン味の」⁴、「krǒoi グロイ味の」⁵、「cùut チュート味の」、「pràa 不調和の味の」⁶、「lǎan 油っこい」、そして「sêep 刺激があって美味しい」⁷である。他の分野から比喩的に転用されて、味を表すようになった言葉には、「rót khēmkhôn 濃厚な味」、「rót klomklòom 丸みのある味＝調和がとれていて美味しい味」、「rót nūm やわらかい味＝やさしい味」、「rót runrɛɛŋ 激烈な味」、「rót nàk 重い味」、「rót lamun-lamai 柔和な味」、「rót thūu-thūu 鈍い味＝調理の腕が未熟なため、物足りなさを感じる味」、「rót càtcāan 口の達者な味＝激烈な味」、「rót càt 激しい味」、「rót lūmlák 深い味＝深みのある味」、「rót chūm khǒo のどを湿らせる味＝甘くて涼しい味」、「rót wǎan (またはprǎao) lǎem 甘味(または酸味の)味が尖がっている＝他の味より甘味(または酸味)が際立っている味」である。後者の味覚を表す言葉は、すでに宮本 [2013] によって考察されているので、ここでは、分析の対象外とする。

2.1 wǎan 甘い

食物の甘さ以外に、「wǎan 甘い」は下記のように用いられる例もある。

1) *helena pen yǐŋ ŋaam thūi ruam khūa troŋ khāam wái nai tua, thǎŋ wǎan lé? khǎy-krāao.*

ヘレナは、甘さと硬さの相反する性質を併せ持つ、美しい女性である。

[TNC-NWCOL011]⁸

2) *sapék phǒm cīŋ cīŋ pen sǎao wǎan wǎan.*

僕の本当の好みは甘い女性です。

[TNC-NWRP EN010]

3) *ʔaaphɔɔn sīi chomphuu ʔɔɔn chúai khǎp phūu hǎi khāao phòŋ ŋaam salǎaŋ wǎan pai thǎŋ núu thǎŋ tua.*

薄いピンクの衣装が、肌を白く輝かせ、美しくて優雅で全身を甘くさせる。

[TNC-PRNV030]

1)の「wǎan 甘い」はヘレナという女性の穏やかで優しい人柄を表す。2)の「wǎan 甘い」は女性のしとやかな外見であり、また、3)の「wǎan 甘い」は優雅で上品であるさまを表す。

4) *yúi mǎi khǎi sūu krapǎo breen nūi lǎi, phrɔʔ khít wǎa mǎi khǎi khāo kàp yúi, phrɔʔ krapǎo khāo*

ca wǎan wǎan nɔ̀i.

私はこのブランドの靴を買ったことがない。このブランドの靴はちょっと甘いので、自分に似合わないと思うから。 [TNC-NWCOL055]

4)の「waan 甘い」は、靴の可愛らしいデザインやパステルカラーのような軟らかい印象を与える色を表す。

5) *tua-ʔeeŋ mǎi dǎi níusùk ʔarai rɔ̀k weelaa kǎo wǎan sawít kàp ʔeeŋ kǎo.*

友達と彼氏が甘くしている時でも特に何も感じないですが。 [TNC-NWCOL071]

5)の「wǎan 甘い」は恋人の間で仲睦まじく愛情を表に出す言動を表す。

6) *phúu thii khə̀i mii rák yɔ̀m sáap dui tranàk wáa nai khwaam-rák nán míʔ dǎi wǎan chíun samǎə pai.*

恋愛の経験がある人は、愛はいつも甘いとは限らないことをよく知っているに違いない。

[TNC-NWCOL106]

7) *emi khǎan bôt phleeŋ sàan yàì càak rúanraao khwaam-rák thii cəʔcəə tháj dui léʔ ráai, tháj wǎan léʔ khǎm.*

エミはよいことも悪いことも、甘いことも苦いことも自分の体験を基に作詞をしている。

[TNC-NWCOL094]

8) *sadeeŋ wáa pháap càak kaan thàai bə̀ep khúu kan khraŋ níi pen kaan yun-yun wáa khwaam-rák yaŋ wǎan.*

今回の一緒に撮った写真からは、二人の愛がまだ甘いということが確認できる。

[TNC-NWRP EN014]

9) *rao khóp kan sɨp pii kó yaŋ wǎan khá.*

私たちは10年も付き合っているのにまだ甘いです。

[TNC-NWRP EN016]

6)～9)では、恋愛における状態を表す。6)と7)の「wǎan 甘い」は「幸せ」であり、7)の場合、「wǎan 甘い」は苦しみを表す「khǎm 苦い」との対照として用いられる。8)は恋愛が円滑に進行している様である。そして、9)では仲睦まじいことを表す。

10) *mii hái lúak sǐ chomphuu wǎan, chomphuu khêm.*

甘いピンクと濃いピンクの選択が出来ます。

[TNC-NWRP SC013]

10)の「chomphuu wǎan 甘いピンク」は淡いピンクのことである。これ以外にこのような意味合いで用いられるのには、「fáa wǎan 甘い空色」や「múanj wǎan 甘い紫色」がある。

「wǎan 甘い」は上記のように、形容詞や動詞として用いられるだけではなく、他の言葉と共に共起して、熟語や慣用句として用いられることも多く見られる。それらの熟語や慣用句を〔表1〕で提示する。

〔表1〕

共起語	各語の意味	用いられる意味
bao wǎan	尿・甘い	糖尿病
fǎn wǎan	夢・甘い	甘い夢を見る、幻想を抱く、期待しすぎる
kham wǎan	言葉・甘い	甘い言葉
khɔɔ wǎan	のど・甘い	甘党
khɔɔŋ wǎan	物・甘い	デザート
khwaam hɔɔm wǎan	こと・香ばしい・甘い	魅力、人気
kliao wǎan	ネジ・甘い	ネジが甘くなっている
klin hɔɔm wǎan	香り・香ばしい・甘い	甘くて香ばしい匂い
klɔɔn wǎan	詞・甘い	幸せな恋愛を語る詩
nāa wǎan	顔・甘い	愛くるしい顔（女性）
nám wǎan	水・甘い	シロップ、甘いジュース
pàak wǎan	口・甘い	お世辞のうまい
phleej wǎan	歌・甘い	ラブソング
phrík wǎan	唐辛子・甘い	パプリカ
rák wǎan	愛・甘い	幸せな恋愛
sǎŋ wǎan	声/音・甘い	甘い声/音
sǐ wǎan	色・甘い	パステルカラー
taa wǎan	目・甘い	大きくてキラキラしている目
wai wǎan	年齢・甘い	ティーンエイジャー、若い年齢
yím wǎan	微笑み・甘い	やわらかくて優しい微笑み
ʔɔɔn wǎan	やわらかい・甘い	穏やかで優しい
wǎan cai	甘い・心	愛する女性（sweet heart）
wǎan hǔu	甘い・耳	耳に心地よくひびく
wǎan khɔɔ réeŋ	甘い・のど・驚	易々と、楽々と
wǎan lín kin taai	甘い・舌・食べる・死ぬ	甘言を信用すれば後で難儀する
wǎan mǔu	甘い・豚	たやすい、簡単だ、“カモだ”
wǎan nɔɔk khóm nai	甘い・外・苦い・中	言葉や行動等表現は幸せそうに見えて、その実内心は辛い
wǎan ʔom khóm klɔɔn	甘い・口の中に含んでいる・苦い・飲み込む	良かれ悪しかれ、満足であろうとなかろうと、黙って辛抱しておく
wǎan pen lom khóm pen yaa	甘い・である・空気・苦い・である・薬	“良薬は口に苦し”、“善言は耳に痛し”

2.2 manマン風味の

豆類、ゴマ、クリーム等の味を表す以外、下記のような使い方が見られる。

11) *ɲuu s̄uu kan man mâak.*

蛇同士の戦いを見るととてもマン風味だ。

[<https://www.youtube.com/watch?v=TtHtTve9YRU>]

12) *luɲ t̄en man mâak.*

おじさんはとてもマン風味で踊っている。

[<https://www.youtube.com/watch?v=Hu7iGnvZuUM>]

13) *n̄i khuu keem th̄i man th̄is̄ut th̄i ph̄m kh̄æi d̄ai l̄en maa.*

これは僕がしてきたゲームの中では一番マン風味なゲームだ。

[<https://www.youtube.com/watch?v=ugNXkqA6h00>]

ある行動を行なったり、またはある出来事を見たりすることにより、楽しくなって病みつきになる状態を表す。11)は蛇の戦いを見ている人の楽しい気持ちを表す。12)は「おじさん」は楽しんで踊っているという場合にも用いられるし、彼の踊りを見たら楽しくなるという場合でも用いられる。また、13)の「keem th̄i man th̄is̄ut 一番マン風味なゲーム」とは「一番やっていて楽しく止められないゲーム」という意味で用いられる。

また、「man マン風味の」は「mamûaŋ マンゴ」と共起し、「mamûaŋ man マン風味のマンゴ」⁹⁾のように、マンゴの一種を呼ぶ言葉としても用いられる。

2.3 pr̄iao酸っぱい

酸っぱさを表す以外に、次のような意味合いで用いられることもある。

14) *ph̄uu-ȳiŋ khon n̄an pr̄iao ca taai pai.*

その女性はすごく酸っぱい。

[富田 1999 : 1127]

15) *ȳaa kh̄ap r̄ot h̄ai pr̄iao n̄ak n̄a.*

車の運転はあまり酸っぱくならないようにね。

[富田 1999 : 1127]

14)の「pr̄iao 酸っぱい」は女性の服装、言動が大胆で、格好がいいという意味合いで用い

られる。15)の、「kháp rót prıao 車を酸っぱく運転する」は「車を飛ばす」という意味になり、ここでの「prıao 酸っぱい」も行動の大胆さを表している。

また、「prıao 酸っぱい」は[表2]のように、他の言葉と共に起し、熟語や慣用句として用いられることもある。

[表2]

共起語	各語の意味	用いられる意味
prıao pàak	酸っぱい・口	酒やタバコなど習慣になっているものを長く断っていて、欲しくなっていること
měn prıao	臭い・酸っぱい	すえたような匂いがする
nom prıao	ミルク・酸っぱい	ヨーグルト
pàak wáan kôn prıao	口・甘い・尻・酸っぱい	口ではお世辞たらたらだが心の中は別

「měn prıao すえたような匂いがする」は更に、16)のように転用される。

16) *kháo tham nâa mên prıao.*

彼はすえたような匂いがする顔をした。

[富田1990 : 1971]

16)の「tham nâa mên prıao すえたような匂いがする顔をする」は「うんざりして耐えられぬといった顔をする」という意味合いを持つ。

2.4 khem 塩辛い

食物の味以外に、17)と18)での意味合いとしても用いられる。

17) *non pen khon dù? lé? khem.*

ノンは怖くて塩辛い人です。

[TNC-PRNV016]

18) *raai-dâi, pan-phôn, phôn-prayòot lôt loj hûaphâap, mâi khem kô læi tîj khem.*

収入、株の配当金などの利益が急に減っているので、元々塩辛くはないのに塩辛くならないといけない。

[TNC-NWCOL054]

17)の「khon khem 塩辛い人」は「ひどくけちな人」であり、18)の「mâi khem læi tîj khem 元々塩辛くはないのに塩辛くならないといけない」は「元々けちではないのにけちなならないといけない」というように、「khem 塩辛い」が「けち」という意味合いを持つように

転用される。

また、「khem 塩辛い」は〔表3〕の通り、他の言葉と共に熟語や慣用句として用いられることも見られる。

〔表3〕

共起語	各語の意味	用いられる意味
bao-khem	尿・塩辛い	ホルモン不足で塩分の排出が多く尿が塩からくなる症状
búai-khem	梅・塩辛い	塩付け梅
lúuk-nám-khem	子供・水・塩辛い	海の子、浜育ち、海軍の軍人
nám-khem	水・塩辛い	塩水、かん水、海水
khài-khem	卵・塩辛い	塩から卵
plaa-khem	魚・塩辛い	塩魚

2.5 phèt 唐辛子辛い

唐辛子や胡椒のような辛さ以外に、以下の意味合いでも用いられる。

19) *mée kháo ca sàat waacaa phèt rón sài tɛ̃ sǎo-nóoi kó yaj tòp klàp dúai nám-sǎaj thii númnuan wǎan sǎi.*

彼はどんなに辛くて熱い言葉をかけ続けても、彼女は相変わらず軟らかくて甘い（優しい）声で答える。 [https://books.google.co.jp/books?id=l3r3BwAAQBAJ]

20) *kaan khèŋkhǎn chíj thamnǎp khǎao pii níi dù-dúat phèt man....*

今年のホワイトハウスの争奪は激しく、唐辛子辛くてマン風味で、....。

[TNC-NWRP_FR009]

21) “*phlɔɔi chǎəmaan bunyasàk*” *sǎam-sài chú bannii-gǎən....sùt séksii. ɲaan níi phrik mòt rǎi kó yaj mái phèt thǎo naaj lǎai cǐj cǐj.*

....“プロイ・チュアマーン・ブンヤサック（女優の名前）”はバニーガールのコスチュームを着て、すごくセクシー。畑全部の唐辛子の辛さを合わせても彼女ほど辛くない。

[manager online 2016年8月16日]

19)の「*waacaa phèt rón* 辛くて熱い言葉」は「激しい言葉」のことを表す。この意味合いで用いられる場合、普通、「*phèt* 唐辛子辛い」は「*rón* 熱い」と共起される。「*tô-thǎaj kan*

yàaŋ phèt rón 激しく口論する」などのように、言い合いや口論を修飾する言葉としてもよく用いられる。20)では、「phèt 唐辛子辛い」は「man マン風味の」と共起し、「phèt man 唐辛子辛くてマン風味である」という形で、競争や戦いにおける激しさは、見る側にとって楽しんで興奮するという感情を表す。一方、21)の「phèt 唐辛子辛い」は女性の身体や服装の大胆さから生じた色っぽさ、魅力を強調するために用いられる。

また、「phèt 唐辛子辛い」は「kêε とく、ほどく」と共起し、「kêε phèt」になって、「仕返しをする」という意味を持つ慣用句としても用いられる。

2.6 khǒm 苦い：

食物の味を表す以外に、「khǒm 苦い」は「khǒm pen yaa 苦い・である・薬=善言は耳に痛し」という慣用句も見られる。

2.7 khùun 渋酸っぱい：

「khùun 渋酸っぱい」は「makhúa 茄類の野菜」と共起し、「makhúa khùun」となって、茄の一種を呼ぶ言葉として用いられる。また、「khǒm 苦い」と共起し、22)と23)のように「khǒm-khùun 苦くて渋酸っぱい」という形で、「辛い」といった苦痛悲哀の気持を表すことが見られる。

22) *khwaam-?òtthon pen sîŋ thîi khǒm-khùun tée phǒn khǒŋ man wǎan chúun samǎ.*

我慢することは苦くて渋酸っぱいことですが、その結果はいつも甘い（幸せ）です。

[<https://th-th.facebook.com/.../>]

23) *weelaa phúut thǔŋ mēe, ...baaŋ khon núk thǔŋ prasòpkaan ?an khǒm-khùun, phró? mēe thîŋ líuk pai.*

“母”について話すと、...母親に捨てられた時の苦くて渋酸っぱい経験を思い出す人がいる。

[TNC-ACSS080]

2.8 fàat 渋い：

渋さを表す以外に、24)のような意味合いを持つ用い方も見られる。

24) *yùu dii dii rúusùk khǎunhǎan kraphó? khayôn khǒŋ-léeo sǐi lǎaŋ fàat lamkhǒ.*

突然気分が悪くなって、のどが渋くなったように黄色のものを吐き出した。

[TNC-PRNV174]

24)の「fàat 渋い」は身体に不快といった感覚を表す。「fàat 渋い」はまた、他の言葉と共に共起し、慣用句としても用いられる。それらの表現を〔表4〕で提示する。

〔表4〕

共起語	各語の意味	用いられる意味
hǔu fàat	耳・渋い	(何の音もしないのに) 幻聴が聞こえる
h̄at fàat	血・渋い	血色の良い(肌)
taa fàat	目・渋い	(目の錯覚で) 見間違える

2.9 f̄an ファン味の：

渋くて吐き気を催すような不快な味を表すこと以外に、〔表5〕のように他の言葉と共に共起して用いられることも見られる。

〔表5〕

共起語	各語の意味	用いられる意味
hǔu f̄an	耳・ファン味の	(耳の錯覚で) 聞き間違える
n̄aa f̄an	顔・ファン味の	バツの悪そうな顔をする
yim f̄an	微笑み・ファン味の	渋面ながら微笑する

「f̄an ファン味の」はさらに、「fàat 渋い」と共起し、25)のように「f̄an f̄an fàat fàat」という形で、「おかしい」、「何か欠けている」、「未熟」という意味合いで用いられることも見られる。

25) dooi saphâap sǎnkhom, s̄ij-w̄eetl̄óm lé? kaan-liān-duu thamh̄ai too t̄e tua.m̄ua d̄ai s̄amph̄at kl̄ai-chit léeo ca d̄ai r̄ap r̄ót f̄an f̄an fàat fàat kh̄ōy kh̄áo .

社会、環境、そして嫉の影響で、身体だけが成長したので、接触するとその人の渋くてファン味を感じる。 [TNC-NWCOL105]

2.10 kr̄ōi グローイ味の：

少し塩分を含んだ水の味を表す以外に、26)～28)のような用い方も見られる。

26) n̄ak-r̄ōy, daaraa....n̄aan phiap t̄e raai-d̄ai kr̄ōi .

歌手や俳優には仕事が多くあるが収入はグローイ味だ。 [TNC-NWCOL054]

27) *yen wannii tâa tōŋ pai khui kàp ʔaacaan chaiphon ʔiik léə, chán kô ləəi kròoi, mâi rúu ca pai khui kàp khrai.*

今日の夕方ター（男性の名前）はまたチャイポーン先生と話しに行かないといけないので、私はグロイー味になる、しゃべってくれる人がいないから。 [TNC-PRNV073]

28) *nai yaam thúk lóok tháy lóok kô kròoi pai.*

苦しいときには世の中が何もかもグロイー味だ。 [富田 1990:66]

26)の「raai-dâi kròoi 収入はグロイー味だ」は「収入が減ってきてさびしい」、27)の「kròoi グロイー味の」は「一人ぼっちになってさびしい」、そして28)の「kròoi グロイー味の」は「つまらない、面白くない、味気ない」という意味合いで用いられる。

また、「kròoi グロイー味の」は「yím 微笑む」と共起し、「yím kròoi kròoi」という形で用いられ、「苦笑しそうな表情をしながら強いて微笑む」といった隠しごとがばれてバツが悪いときなどのように、仕方なく微笑むという意味合いで用いられる。29)を見てみよう。

29) *săai-taa wíp-wáp lóolian nit nit yàaŋ tōŋkaan bòok kháo wâa thəə rúu rúuŋ kháo léʔ ʔanyaanii pen yàaŋ dui, léʔ tham hái chaichaná yím kròoi kròoi.*

彼女は彼（チャイチャナという名の男性）とアンヤーニー（女性の名前）のことを実はよく知っているが、無言で伝える目付きをしているので、チャイチャナはグロイー味の微笑みをしている。 [https://books.google.co.jp/books?....]

2.11 cùut チュート味の：

「cùut チュート味の」は水のような無味、味が薄い、期待する味より薄い場合に用いられるが、それ以外にも、下記の例にあるような使い方も見られる。

30) *samăi nán nâa-taa kháo mâi khôii tēŋ kan, plòii pen taam thammachâat, mǝ kô ləəi cùut mòt tháy tēŋ-tua phǝm-pháo ruam tháy nâa-taa.*

当時の人は素っぴんのままであまり化粧をしなかった。私も服装、髪の毛、そして顔も含めすべてチュート味だった。 [TNC-NACHM085]

31) *rao rúu-tua wâa pen khon cùut, chòp ʔarai riap riap nâai nâai.*

自分がチュート味な人と分かっている。地味でシンプルなものが好き。

[TNC-NWCOL119]

30)と31)の「cùut チュート味の」はあまり着飾ることのない、地味な外見や人柄を表す。

32) *mée pàtcubanníi ca mii chàak kòo-kaan-ráai thii duu sòm ciij tháodai, tée kò duu mǎan cùut pai mǎa thǎap kàp kaan-kòo-kaan-ráai thii world trade center.*

現在（の映画では）どんなに現実に見えるテロのシーンであっても、ワールドトレードセンターでのテロと比べたら、チュート味すぎるように見える。 [TNC-NACMD069]

32)は、ワールドトレードセンターであった本物のテロと比べると、映画のテロのシーンは迫力に欠け、面白くないと言っている。このように「cùut チュート味の」は「面白くない」という意味合いでも用いられる。

33) *tɔɔn níi yùu dúai kan maa sǎam-síp pii, tée khwaam-rák yan mái cùut.*

30年間も一緒に生活してきているが、愛情はまだチュート味にはなっていない。

[TNC-NWRP SS008]

34) *thǎy lòo mái mǎak mǎan hoŋchuan kǎo kò mii sanèe, duan-taa rǎarəəy, pàak kwáay, yím nǎai, duu mái cùut ləəi.*

ホンチュアン（男性の名前）ほどすごく男前ではないが、彼には魅力があり、目はキラキラとして、口が広くて、いつもにこにこしていて、いくら見ても全然チュート味にならない。

[TNC-PRNV037]

33)の「khwaam-rák yan mái cùut 愛情はまだチュート味にはなっていない」は「愛情はまだ冷めない」という意味合いで用いられる。この場合の「cùut チュート味」は「冷める」、「薄れる」という意味合いを持つ。34)の「duu mái cùut いくら見てもチュート味にはならない」は「見飽きない」ということで、ここでは「cùut チュート味」は「飽きる」という意味合いで用いられている。

35) *kǎo mái níik wáa kaan-sadeey ca yúut-yaao lé? khònkháŋ cùut khanàt níi.*

彼はこのショーがこんなに長くてチュート味をしているとは思わなかった。

[TNC-PRNV050]

36) *phaakɔɔn khəəi cəə tée phǎu-yǐŋ thii sǎai sǎai thii pen ʔaahǎan taa....tée phɔɔ mɔɔŋ con cùut léəo kò bǎa.*

パーコーン (男性の名前) は目の保養になる物として美しい女性とばかり会っていた....。しかし、長い間眺めていると、チュート味になって飽きてくる。

[TNC-PRNV105]

35) の「kaan-sadεεŋ cùut ショーがチュート味をしている」とは「ショーは面白くない」ということであり、36) の「mɔŋ con cùut 長く見ているとチュート味になる」は「長く見ていると新鮮味がなくなる」ということで、どちらの「cùut チュート味の」も「見ていても気持ち晴れたり、愉快になったり、また楽しくなったりはしない」という人の感情や物事の状態を表す。

「cùut チュート味の」はさらに、[表6]にあるように他の言葉と共起し、熟語や慣用句としても用いられる。

[表6]

共起語	各語の意味	用いられる意味
bao cùut	尿・チュート味の	淡尿症
cai cùut	心・チュート味の	冷淡な
din cùut	土・チュート味の	やせた土
kεεŋ cùut	スープ・チュート味の	中国風の澄まし汁
màak cùut	ビンロウジ ¹⁰ ・チュート味の	ビンロウジを嗜んでいるうちにその渋みがなくなる
nâa cùut	顔・チュート味の	青ざめた顔
nâam cùut	水・チュート味の	淡水
sĩi cùut	色・チュート味の	色が薄れている
yaa cùut	タバコ・チュート味の	ゆるいタバコ
cùut caaŋ	チュート味の・薄れる	愛情が冷める、心が離れる
cùut chùut	チュート味の・冷める	味がなくなった、面白みがなくなった、興ざめの
cùut sían	チュート味の・敵	国賊がいなくなった、敵国がなくなった
cùut taa	チュート味の・目	見慣れて新鮮味がなくなった、見飽きた

2.12 pràa 調和がうまく取れていない味の：

「pràa 調和がうまく取れていない味の」¹¹は味以外にも、下記のような比喩的な用い方が見られる。

37) *khít yanŋai thũy rian wíchaa níi lâ. kham-thãam níi lên ?ao khon-tɔɔp khôm pràa nai khɔɔ.*

どういふつもりでこの授業をとったの。この質問で答える人は喉が苦くて調和がうまく取

れていない味になってしまった。

[TNC-PRNV161]

38) *mêe-nám kòk sǎai kwâaŋ yài rǎm rǎp rôt pràa plèek càak nám-muu manút.*

広くて大きいゴック川は人間の手から変わった調和がうまく取れていない味を受け始めた。

[TNC-PRSH017]

37)では、「pràa 調和がうまく取れていない味の」は「khǒm 苦い」と共起し、「khǒm pràa」になって、「喉が不快で変な感覚 (= 答えにくい)」という意味合いで用いられる。38)の「pràa 調和がうまく取れていない味の」は「rót 味」と共起し、「rót pràa」になって、「変な感覚 (= 川にとってはよくないこと)」という意味合いを持つ。いずれも、「pràa 調和がうまく取れていない味の」は人や物にとっては異常な、奇妙な、不都合な状態を表す言葉として用いられる。

また、「pràa 調和がうまく取れていない味の」は「sǎaŋ 声、音」と共起し、「sǎaŋ pràa」になって、「不協和音の」という意味合いで、聴覚の表現としても用いられる。

2.13 lian 油っこい:

普通、油性が強い味を表すが、食べると気持ちが悪くなるほど甘味やマン風味が強すぎる場合にも、「lian」と表現する。「lian 油っこい」は味そのものを表す以外に、下記のような用い方も見られる。

39) *chán khuan ca bòk hǎi kǎo lǎk phúut kham wǎan lian bèep ní dii mái ná.*

私は彼に、このような甘くて油っこい言葉を言うのを止めるように言うべきかな。

[TNC-PRNV084]

40) *phúut bèep ní tòò náa chán.man lian, kǎo-cai mái.*

私の前でこのような言葉を言うと、油っこいよ、分かる？。

[TNC-PRNV128]

39)の「kham wǎan lian 甘くて油っこい言葉」は「言葉があまりにも甘すぎるので、聞いて気持ちが悪くなる」という意味合いで用いられる。40)の「lian 油っこい」も、言われた言葉に対して「気持ちが悪い」という意味合いを持つ。

41) *klìn nán hǒm wǎan loŋ tua.mái cùut chúut lé? mái lian con kǎen pai.*

その匂いはちょうどよい具合に甘くて香ばしい。薄すぎないし油っこすぎることもない。

[TNC-PRNV108]

41) あまりにも甘くて香ばしすぎる匂いは却って気持ちが悪くなることがある。そのような強すぎる匂いのことを「lian 油っこい」と表す。

42) *chéem mâi khít wâa thəə nâa bûa, léʔ yàak ca bôok thəə yàaŋ nán, tít kô tɛɛ kháo mâi nêe-cai wâa nân ca faj lian...mâak pai rǔu plàao.*

チェーム (男性の名前) は彼女がうんざりさせるような女性だとは思わないし、彼女にもそのように伝えたいが、それを聞いて油っこすぎると感じるかどうか自信がない。

[TNC-PRNV122]

42)の「faj lian 聞いて油っこい」は「聞いて気持ちが悪くなる」という意味合いで用いられているように「lian 油っこい」は聴覚を表すようにも転用される。

2. 14 sêep 刺激があって美味しい：

主に、「pǎiao 酸っぱい」、「khem 塩辛い」、そして「phèt 唐辛子辛い」の混合で、刺激があって美味しいという意味がある「sêep」には下記のような転用が見られる。

43) *sínlapin kamikaze khon dai tên dâi sêep thǔy-cai khun mâak thǔi sùt.*

カミカゼ (音楽グループの名) のアーティストの中ではあなたにとって一番刺激があって美味しく踊れる人は誰ですか。 [ilovekamikaze.Com/news/09K3ALAO]

43)の「tên dâi sêep 刺激があって美味しく踊れる」とは「見る人を魅了する力強い踊りが出来る」ということで、ここの「sêep 刺激があって美味しい」は「勢いがあって満足感を与える」という意味合いで用いられている。

3. 転用された味覚語と転義

3.1 五感の分野内での転義

味覚語の中では他の感覚を表すように転用されるのは、[表7]にあるように、「wǎan 甘い」、「fàat 渋い」、「fúan ファン味の」、「cùut チュート味の」、そして「lian 油っこい」に見られる。「wǎan 甘い」は「sǔi 色」、「sǎaŋ 音/声」、そして「klin 匂い」を表す言葉に修飾して、やわらかくて優しい色、音/声、匂いという転義を持つようになる。「fàat 渋い」は「taa 目」と「hǔu 耳」に修飾し、錯視と幻聴を表すようになる。「fúan ファン味の」は「hǔu 耳」に修飾

し耳の錯覚（聞き間違い）を表す。「cùut チュート味の」は「sǐi 色」に修飾し、薄れて鮮明さに欠けている色を表す。そして、「lian 油っこい」は「faŋ lian 聞いて気持ちが悪い」のように、ある特別な気分（悪い気分）が、耳を通して感受された言葉によって引き起こされるという意味合いを持つようになる。

[表7]

味覚語	味覚語が修飾する言葉	転義
wǎan 甘い	sǐi 色、sǎaŋ 音/声、klin 匂い	やわらかくて優しい色、音/声、匂い
fǎat 渋い	taa 目、hǔu 耳	錯視、幻聴
fǎan ファン味の	hǔu 耳	耳の錯覚（聞き間違い）
cùut チュート味の	sǐi 色	薄れて鮮明さに欠けている色
lian 油っこい	faŋ 聞く	聞いて不快な気分になる

3.2 五感の分野外での転義

3.2.1 人、植物、物、食べ物、病気の名称

この種の転義は、[表8] で示されているように、「wǎan 甘い」、「man マン風味の」、「khem 塩辛い」、「khùn 渋酸っぱい」そして「cùut チュート味の」の転用に見られる。「wǎan 甘い」は野菜、食べ物、病気の名称に、「man マン風味の」は果物の名称に、「khem 塩辛い」は海のそばで生活をしている人や海を職場としている人、食べ物、病気の名称に、「khùn 渋酸っぱい」は野菜の名称、そして「cùut チュート味の」は食べ物、病気の名称にそれらの転義が用いられている。

[表8]

味覚語	対象となるもの
wǎan 甘い	野菜、食べ物、病気
man マン風味の	果物
khem 塩辛い	海に関わりのある人、食べ物、病気
khùn 渋酸っぱい	野菜
cùut チュート味の	食べ物、病気

3.2.2 人の外見、性格、人柄

これらの転義は、[表9] で示されているように、「wǎan 甘い」、「pǎiao 酸っぱい」、「khem 塩辛い」、「phèt 唐辛子辛い」、「cùut チュート味の」の転用に見られる。「wǎan 甘い」は優し

い外見や穏やかな人柄、「pǎiao 酸っぱい」はシャープで大胆な外見や活発な人柄、「khem 塩辛い」は金品を必要以上に惜しむ性格、「phèt 唐辛子辛い」は大胆さから生じる魅力的外見、「cùut チュート味の」は衰弱、貧弱、地味な外見といった転義を持つ。

[表9]

味覚語	人の外見、性格、人柄
wǎan 甘い	優しい、穏やか
pǎiao 酸っぱい	シャープで大胆、活発
khem 塩辛い	金品を惜しむ性格
phèt 唐辛子辛い	大胆さから生じる魅力
cùut チュート味の	衰弱、貧弱、地味

3.2.3 人や物事の状態

この転義は、[表10]にあるように、「wǎan 甘い」、「pǎiao 酸っぱい」、「phèt 唐辛子辛い」、「fàat 渋い」、「cùut チュート味の」、「fùan ファン味の」、「kròoi グロイー味の」、「pràa 調和がうまく取れていない味の」、「lian 油っこい」そして「sêep 刺激があって美味しい」の転用に見られる。「wǎan 甘い」は安易、順調、楽、美麗、仲の良さ、「pǎiao 酸っぱい」は言動における積極性、「phèt 唐辛子辛い」は言動における激しさ、刺激の強さ、「fàat 渋い」は不快、異常、未熟、「fùan ファン味の」は異常、「cùut チュート味の」は物足りなさ、微力、迫力が欠けているさま、消滅、「kròoi グロイー味の」はさびしさ、「pràa 調和がうまく取れていない」は異常、不快、「lian 油っこい」は不快、「sêep 刺激があって美味しい」は激しくて、見る側に快適、満足感を与えているさま、といった転義を持つようになった。

[表10]

味覚語	人や物事の状態
wǎan 甘い	安易、順調、楽、美麗、仲の良さ
pǎiao 酸っぱい	言動における積極性
phèt 唐辛子辛い	言動における激しさ、刺激の強さ
fàat 渋い	不快、異常、未熟
fùan ファン味の	異常
cùut チュート味の	物足りなさ、微力、迫力が欠けているさま
kròoi グロイー味の	さびしさ
pràa 調和がうまく取れていない味の	異常、不快
lian 油っこい	不快
sêep 刺激があって美味しい	激しくて、見る側に快適、満足感を与えているさま

3.2.4 感情

「感情」に関する転義は、[表11]にあるように、「wǎan 甘い」、「man マン風味の」、「prǎao 酸っぱい」、「khǒm 苦い」、「khùun 渋酸っぱい」、そして「sêep 刺激があって美味しい」の転用に見られる。「wǎan 甘い」は幸せ、「man マン風味の」は楽しさ、「prǎao 酸っぱい」は不機嫌、「khǒm 苦い」は苦勞、苦しみ、「khùun 渋酸っぱい」は苦しみ、辛さ、「sêep 刺激があって美味しい」は満足といった転義を持つようになる。

[表11]

味覚語	感情
wǎan 甘い	幸せ
man マン風味の	楽しさ
prǎao 酸っぱい	不機嫌
khǒm 苦い	苦勞、苦しみ
khùun 渋酸っぱい	苦しみ、辛さ
sêep 刺激があって美味しい	満足

4. 味覚語の比喩的転用の特徴

4.1 味覚語が転用されるパターンとその転義の特徴

すべての味覚語にはそれぞれの比喩的転用が見られる。その中では、「wǎan 甘い」は他の味覚語よりも、転義における多様性が最も多く見られるし、プラス的な転義も最も多く存在する。味覚語の原義を大きく分けると、「wǎan 甘い」と「man マン風味の」のような、《美味しくて比較的心地よい感覚を引き起こすタイプ》、「prǎao 酸っぱい」、「khem 塩辛い」、「phèt 唐辛子辛い」、「sêep 刺激があって美味しい」のような、《食欲を増し、刺激を与えるタイプ》、「khǒm 苦い」、「fǎat 渋い」、「khùun 渋酸っぱい」、「fǎan フアン味の」、「krǒi グローイ味の」、「lǎan 油っこい」のような《一般的には不快な感覚を与えるタイプ》、そして「cùut チュート味の」のような《薄味、無味、または薄すぎる、物足りなさを感じさせるタイプ》となる¹²。これらのタイプの原義を持つ味覚語は転用された後にも、たとえば心地よい感覚を引き起こすタイプの味覚語は転用されるとプラス的な転義を持ち、不快な感覚を与えるタイプの味覚語は転用されるとマイナス的な転義を持つ、といったように、基本的にそれぞれの原義と類似する転義を持つようになる。しかし、その中には原義と対照的な転義をもつようになるものも少ないながら見られる。一般的に心地よい感覚を引き起こすタイプの「wǎan 甘い」には「やさしさ」、「穏やかなさま」、「幸せ」があるように、主にプラス的な転義を持つようになる一方、「wǎan pen lom 甘い言葉は聞く人の為にはならない」、「fǎn wǎan 妄想をいだく」、「kliao wǎan

ねじが緩い」のようにマイナス的なものも若干見られる。それに対し、普通不快な感覚を与える味である「khöm 苦い」には「辛さ」、そして、「fàat 渋い」には「目や耳の錯覚」があるように、主にマイナス的な転義を持つようになるが、「khöm pen yaa 苦いのは薬である = 善言は耳に痛し」と「lâat fàat 血色の良い(肌)」のようなプラス的な転義も見られる。このように対照的なタイプの味が転用先ではそれぞれの原義と反対の転義を持つことは、比喩的転用の現象の一つであるが、タイ人の日常生活における食文化にも類似の現象が見られる。「wăan 甘い」と「man マン風味の」の食物は普通美味しく思われて好まれるが、甘味やマン風味が強すぎると、「līan 油っこい = 気分が悪い」となる。「līan 油っこい = 気分が悪い」とならないように、甘味やマン風味の強さを軽減するために、タイ人は意図的に「khöm 苦い」や「fàat 渋い」味がする野菜と一緒に食する。本来不快で好まれない味であるが、このように脇役として重要な存在でもある「khöm 苦い」や「fàat 渋い」は比喩的転用においても、プラス的なものが見られるのはそのためであろう。また、刺激を与えるタイプの味は、「přiao 酸っぱい」には「大胆」、「シャープ」、「すえた臭い」、「khem 塩辛い」には「金銭などを非常に惜しむ」、「phèt 唐辛子辛い」には「激しさ」、「sêp 刺激があって美味しい」には「刺激的で満足」のように、主にきつさ、激しさ、強烈さを表す転義を持つ。刺激を与えるタイプの対照には、無味、薄い、特定の味が欠けている「cùut チュート味の」がある。「cùut チュート味の」にはその原義の通り、欠損や衰弱を表す転義が圧倒的に多く存在する。タイ人の食生活にも表されているように、濃厚で激烈な味の食物は好まれるが、水以外の「cùut チュート味の」味がする食物は普通物足りなさが感じられるため歓迎されない。一般の屋台やレストランでは、どこでも必ず調味料のセットが用意されている。それは甘味を与える砂糖、マン風味を引き起こす砕いたピーナッツ、酸味を与える酢、塩辛い味の魚醤、辛味を与える唐辛子の5種である。味が「cùut チュート味の」にならないように、個人の好みに合わせて濃厚で刺激のある、満足できる味になるまでそれらの調味料を加える。このようなタイ人の食文化と同じく、様々な転義を持つ味覚語の中では「cùut チュート味の」の転義にマイナス的なものが最も多く存在するのは、「cùut チュート味の」そのものが最も好まれない、選ばれない、そして重要視されていない味であるからだと考えられるだろう。

4.2 共感覚的比喩 (synaesthetic metaphor)

5つの感覚の間では、味覚語が嗅覚、聴覚、そして視覚を表すように転用されるが、触覚を表すように転用されるのは見られなかった。〈味覚→嗅覚〉には、「匂って心地よい」と「匂って不快」、〈味覚→聴覚〉には、「聞いて心地よい」と「聞いて不快」や「聞き間違い」、そして〈味覚→視覚〉には、「やわらかくてやさしい感覚を引き起こす色」と「薄れて鮮明さに欠けている色」、といったようにそれぞれの転用はプラスとマイナスといった両極性の転義

を持つようになった。そして、それぞれの転用先には、「wǎan 甘い」を含む複数の味覚語からの転用が見られる。そこに、[表12]にあるように、「wǎan 甘い」はプラス的な転義を持つようになり、マイナス的な転義を持つようになった他の味覚語とは対照的である。

[表12]

味覚語の転用先	プラス的な転義を持つようになる味覚語	マイナス的な転義を持つようになる味覚語
嗅覚	wǎan 甘い	prǎao 酸っぱい
聴覚	wǎan 甘い	fàat 渋い、fùan ファン味の、lian 油っこい
視覚	wǎan 甘い	fàat 渋い、cùut チュート味の

転用方向については、〈味覚→嗅覚〉、〈味覚→聴覚〉はあるが、〈味覚→視覚〉はないといったWilliams [1976]の指摘とは違い、ここでは、〈味覚→嗅覚〉、〈味覚→聴覚〉以外に〈味覚→視覚〉も見られ、国広 [1989]の指摘と共通する。これを、タイ語には味を表すために触覚、嗅覚、そして視覚からの転用が見られるといった宮本 [2013]の論証と合わせて考慮すると、タイ語の味覚を表す言葉の比喩的転用には〈触覚→味覚〉、〈味覚→聴覚〉、〈味覚⇔嗅覚〉、そして〈味覚⇔視覚〉があるように、比喩方向は必ずしも、Williams [1976]が示したように一方向であるとは限らない、さらに、味覚と嗅覚、そして味覚と視覚との間での転用方向は双方向であることも明らかになった。

4.3 共感覚的比喩以外の転義

味覚語は感覚の分野を超えて、感覚以外のことも表すように比喩的に転用される。植物、食べ物、病気の名称には、色々の味を由来として命名されているものがある。そして、見た目は穏やかでやさしい・派手で活発、積極的・消極的といった人間の言動、また、幸・不幸、満足・不満、強・弱、楽しい／面白い・つまらないといった人間の内面的な感覚も表すように転用されている。「wǎan 甘い」物を食したら、美味しくて幸せを感じたり、元気が出たりするが、「khǒm 苦い」物を味わうと不快になったり、気分が落ち込んだり、といったように、食生活において色々な食材や料理を味わうことで様々な感情を抱く。そこから、日々の生活や出来事において感じる様々な身体的、精神的状態の機微を言葉で表す際に、直接的では的確に伝わりにくい事を、味覚語の比喩的転用を持ってより忠実に感情を表現しようとしている。タイ語にはこれらの味覚語の比喩的転用が多く見られるのは、タイ語の味覚語自体が多く存在しているように、タイ人が認識する食に対する感覚の豊かさから来るものだと考えられる。

5. おわりに

本稿で分析の対象として用いられる味覚の比喩的転用の用例は現在タイ人の日常生活で用いられているものから引用したものである。周知の通り、言語はいつも変化しているため、今後味覚の比喩的転用にもまた新しい要素が生まれてくることは容易に予想できる。今後も比喩的転用の状況を引き続き観察していく必要があると思われる。また、「pràa 不調和の、不協和の」は本来味覚語なのか、聴覚語なのかについても明らかになるまで研究し続ける必要があると思われる。これも合わせて今後の課題としたい。

注

- 1 「man マン風味の」はイモ、豆、ゴマ、クリーム等の風味を表し、食べ始めたら止められないような快適な（あとを引く）味を表す [宮本 2012 : 56]。
- 2 c は有気音 [tʃ] ではなく無気音 [tʃ̥] であり、英語のcatのような [k] の発音ではない。cùut (チュート味の) は、甘い、酸っぱい、辛い等の特定の味覚語では説明できない、無味、薄味、または水のような味、さらに本来の味や望んでいた味が不足しておいしくないという意味合いでも用いられる。日本語には「淡味」という言葉があり、「あわい味、あっさりした味、また、うまみの不足したさま」という意味がある [小学館 2005]。しかし、「淡味」は「cùut」と違い、無味の状態または水のような味を表す言葉としては用いられない。このように、「淡味」はタイ人が感じる「cùut」という味覚語と同意語とは言えないため、本稿では「cùut」という味を表すのに「チュート味の」と表記することにする [宮本2011 : 85]。
- 3 先行研究に記述されている日本語と発音符号の表記は原文通り。
- 4 「fàan フアン味の」は渋くて吐き気を催すが如き不快な味の状態。
- 5 「kròoi グロイ味の」は、主に水道水の不快な味を示す。
- 6 「pràa 不調和の味の」は様々な味が混合しているが、調和がとれていないので、何の味か分からぬ変な味の状態。
- 7 「美味しい」という意味がある東北タイの方言であり、共通語では主に、酸っぱさ、塩辛さ、唐辛子辛さといった味の混合で、激烈で、食すると満足感を与えるような味を表す言葉として用いられている。
- 8 TNCはThai National Corpus。「-」の後ろの表記はTNCの各例文の前に記している記号。
- 9 青いマンゴの一種である。青くて、実がまだ固い間に食べると美味しいとされる。
- 10 ビンロウ (ヤシ科の植物) の種子をビンロウジと呼び、嗜好品として噛んでその渋みを楽

しむ。

- 11 「pràa」は「sǎaŋ pràa 不協和音の」といった聴覚の言葉としても用いられているように、本来、味覚語なのか聴覚語なのかはタイ語母語話者コンサルタント（タイの共通語をしゃべっている20代～50代の男女計8名。内訳：20代の女性3名、30代の男性1名、40代の女性1名、50代の女性3名）の間でも意見が分かれるところであるが、「pràa」と聞いて、まず思い浮かぶのは音よりも味の方であるという意見の方が多くあることから、ここでは味覚語として扱う。
- 12 宮本 [2011] は味覚語を4つのタイプに分類している。(1) MWタイプ：美味しくて比較的心地よい感覚を引き起こす味。このタイプには「wǎan 甘い」と「man マン風味の」がある。(2) PKタイプ：食欲を増し、刺激を与える味。このタイプには「prǎao 酸っぱい」、「khem 塩辛い」、「phèt 唐辛子辛い」がある。(3) KFタイプ：一般的には不快な感覚を与える味。このタイプには「khǒm 苦い」、「fàat 渋い」がある。(4) Cタイプ：薄味。無味。または薄すぎる、物足りなさを感じさせる味。「càut チュート味の」にしか見られない。[2011 : 96]

参考文献

- 綾部裕子 (1979) 「味覚を表す基本的単語とその比喩的表現—英語・タイ語・日本語の場合—」, 『文学研究』 第76号, 九州大学文学部, 九州, pp. 105-126.
- 石毛直道 (1983) 「味覚表現の分析」, 『言語生活』 第382号, 筑摩書店, 東京, pp. 14-25.
- 国広哲弥 (1989) 「五感を表す語彙—共感覚比喩的体系」, 『言語』 11月号, 大修館書店, 東京, pp. 28-31.
- 佐藤博史 (2000) 「タイ語における感覚形容詞のメタファー的拡張」, 『天理大学学報』 第52巻 (第1号), 天理大学学術研究会, 奈良, pp. 1-37.
- 瀬戸賢一 (2003 a) 「味のことばとことばの味」, 『ことばは味を超える』, 海鳴社, 東京, pp. 11-26.
- (2003 b) 「五感で味わう」, 『ことばは味を超える』, 海鳴社, 東京, pp. 62-78.
- (2005) 「ことばで味わう—表現のテクニクおしえます—」, 『味ことばの世界』, 海鳴社, 東京, pp. 11-53.
- 外山滋比古 (1989) 「慣用表現とは何か」, 『言語』 2月号, 大修館書店, 東京, pp. 22-27.
- 辻本智子 (2005) 「比喩で味わう—ことばと身体の深い関係」, 『味ことばの世界』, 海鳴社, 東京, pp. 137-161.
- 富田竹二郎 (1990) 『タイ日辞典』, 養徳社, 天理.

- 宮本マラシー (2011) 「タイ語における味覚語の体系関係」, 『大阪大学世界言語研究センター論集』第5号, 大阪大学, 大阪, pp. 79-100.
- (2012) 「タイ語における味の評価表現」, 『大阪大学世界言語研究センター論集』第7号, 大阪大学, 大阪, pp. 55-73.
- (2013) 「味を表すタイ語表現における比喩」, 『言語文化研究』第39号, 大阪大学大学院言語文化研究科, 大阪, pp. 125-148.
- 山梨正明 (1988) 『比喩と理解』, 東京大学出版会, 東京.
- Boonmee Teerayuth. (2008) 'Waiyakorn Khong Aahaan Thai: Culture is Created but Cuisine is Consumed', "Art&Culture" Vol. 29, No. 3, Matichon Publishing, Bangkok, pp. 163-170.
- G・レイコフ&M・ジョンソン (1980) 渡部昇一, 楠瀬淳三, 下谷和幸 (訳) (1986) 『レトリックと人生—Metaphors We Live By』, 大修館書店, 東京.
- Jantra Jantima. (1999) 「日本語形容詞「あまい」の意味拡張と広告における多義的使用の分析—英語<sweet>およびタイ語<wāan>と対照しながら—」, 『DYNAMIS: ことばと文化』第3巻, 京都大学大学院人間・環境学研究科文化環境言語基礎論講座, 京都, pp.142-193.
- Jirananthanaporn, Supatra and Singnoi, Unchalee. (2010) "The Ethnic Taste terms in the Lower Northern Part of Thailand: A Case Study in Ethnosemantics" in *Warasarn Manutsayasart Mahawitthayalai Naresuan*, Vol.7, No.3, Naresuan University, Pitsanuloke, pp. 1-30.
- Pramoj, Khukrit. (2000) *Nam Phrik*, Dok Yaa, Bangkok.
- Williams J.M.. (1976) 'Synaesthetic adjective: a possible law of semantic universals', "Language", 52:2, Linguistic Society of America , Baltimore, pp. 461-477.